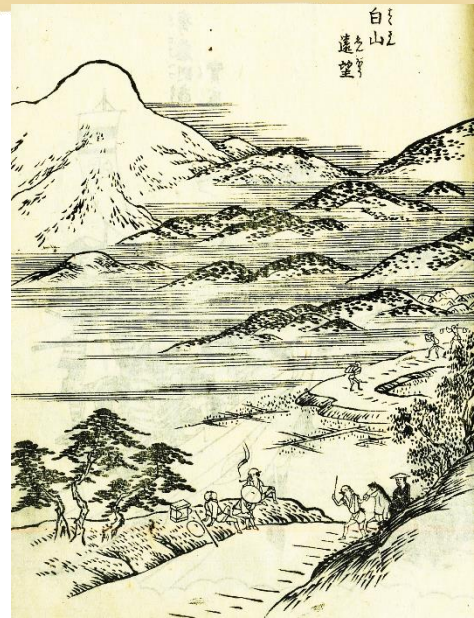


# 江戸時代 旅の流行

江戸時代になると、大名が地方と江戸を往復する参勤交代のための道が整備されたほか、社会経済が安定したことなどにより、娯楽としての旅が庶民の間でも生まれました。

江戸時代中期に、伊勢神宮をはじめとした神社や仏閣参拝の旅が庶民の間で行われるようになり、後期頃には社寺参拝に加え、名所とよばれる観光地をめぐる旅が流行しました。

旅をするときに、人々は街道にそって宿 駅間の距離を目安に移動しました。宿 駅とは、交通の要所におかれた宿場町のことです。野々市は北国街道の宿 駅の一つとして定められ、金沢から京都方面へ向かう最初の宿 駅としてにぎわいました。



白山を眺めながら休憩する旅人  
『二十四輩順拝図会』より



「宿送人足伝馬之書」

慶長20年(1615) 市指定文化財  
宿 駅に備えられた人足や馬を管理するために加賀藩が各宿 駅に交付したものです。加賀藩では、この頃から宿 駅制度の整備をはじめました。



現在の北国街道(野々市市本町)

かつての街道沿いの面影を残す古い家が今も立ち並びます。